



社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 17 号

2004 年 2 月 20 日 発行：社会言語科学会事務局
〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2・1・1 専修大学文学部加藤研究室気付
電話/Fax: 044-911-0689 E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp

<http://www008.upp.so.net.ne.jp/jass/>

(学会ホームページとメールのアドレスは、近々変更される予定です)

《巻頭言》

社会心理学に「言語」を

社会言語科学会理事
愛知学院大学心身科学部
岡本真一郎

社会心理学の一分野として、説得的コミュニケーションの研究がある。環境問題に関心を持ってもらう、交通ルールを守ってもらう、など、人の意見や行動を変えるのにはどのような方法でメッセージを送ると効果的かに関して、理論的・実験的に検討を行う分野であり、社会的認知やコミュニケーションの基礎的な研究のためにも、また宣伝・広告など応用的にも（もちろんそれらを利用するだけでなく、悪用をチェックするという意味でも）極めて重要である。20世紀前半の実験的な社会心理学の創成期から研究が行われ、多くの知見が得られてきた。

さて、言うまでもなく説得は言葉によって行われる。したがって言語の諸特徴も説得に影響を与えるはずである。たとえば説得者の言葉づかいによって信憑性や魅力の印象が異なり、説得効果が左右される可能性がある。言語形式の違いは、説得される側が論拠の妥当性を吟味して受け入れや

拒否を決める過程にも影響を与えるだろう。内容によっては明示的な主張よりも、含意のほうが説得効果が大きいことも考えられる。さらに丁寧さ、比喩、ユーモアなどによって主張が快く受け入れられる可能性が高まるかもしれない。このように、言語と説得効果の関連について、多くの検討されるべき問題がある。

しかしながら、言語面に焦点を当てた説得研究は数が少ないし散発的である。理論的にあまり体系的なものが見られない。同じようなことは社会心理学の他のいくつかの分野に関するものもある。「自己についてのコミュニケーション」「攻撃行動と宥和」「社会的リスクのコミュニケーション」「流言（うわさ）の伝播と変容」「流行」など、もっと言語との関係を正面に据えた研究が行われてよいのに、と思われる問題が多く存在する。変数を統制した実験や調査、統計的な分析などは、社会的場面での言語行動の研究に有効なはずである。

もちろん現在でも言語が正面から扱われている分野もある。たとえば言語や方言のアコモデーションやポライトネスに関しては、社会心理学的な立場からの実験研究もかなり見られる。専門誌“Journal of Language and Social Psychology”も刊行されている。こうした傾向を、いろいろな分野へ

目次

- p.2 … 春のセミナー「論文投稿のコツ」の御案内と参加者募集
- p.3 … 第 13 回研究大会プログラム
- p.5 … 社会言語科学の未来を作る会第 4 回集会のお知らせ／学会誌『社会言語科学』の書評候補の募集
- p.6 … 博士論文情報／研究最前線

とさらに拡大させていく必要があると考える。それに現在の研究はポライトネスを除けば欧米中心である。日本語を初めとしたアジアの言語によるコミュニケーションの特徴を念頭において、研究を発展させていくことにも意味があるだろう。

本学会はこうした研究の発表には絶好の場である。社会心理学的観点の研究がもっと増えて行つたらいいと思う。本学会のメンバーはもちろんだが、言語の問題に关心を持っている社会心理学の

研究者は他にもいるように思う。こうした方々に参加を呼びかける必要も感じている。それから「社会心理学」的問題に対しては、社会言語学や語用論など言語を専門とする研究者にもぜひ関心を寄せていただきたい。より広い立場からの議論が交わされれば、当然新たな方向へと研究が展開することも期待できるからである。

(おかもと しんいちろう)

社会言語科学会 春のセミナー「論文投稿のコツ」の御案内と参加者募集

論文を投稿する時に、また投稿後の査読者とのやりとりの時に困った経験をされた方は多いと思います。今回のセミナーは、本学会初の試みとして、投稿論文執筆のための「コツ」について、参加者全員で考えてみたいと思います。これから初めて投稿しようとする若手研究者にとって有益であることは言うまでもないと思いますが、査読を手がける査読者にとっても、ベテラン研究者にとっても有益であると思います。どうぞ奮ってご参加下さい。

日時： 2004年3月26日（金） 13時～17時（予定） ※第13回大会の前日です

場所： 東京工芸大学 中野キャンパス・芸術情報館 (<http://www.t-kougei.ac.jp/arts/johokan.html>)

参加費用： 1,000円（学生は無料）

費用は当日受付にて申し受けます。つり銭のいらないようあらかじめご用意下さい。

講師： 日比谷潤子（ICU）

岡隆（東京大学）

熊谷智子（国立国語研究所）

内容： まず各講師の先生から、良い論文を書く上での留意点、苦労話、発想法、査読者からのコメントへの対処法、良い論文の具体例、などについてご自身の経験をまじえながら、ご講演いただきます。ご講演いただいた後、フロアとのインタラクションの時間を設けます。

定員： 50名（先着順に受付）

申し込み方法： 以下の内容を記載した E-mail を下記まで送付して下さい。

〈問い合わせ・申し込み先〉

社会言語科学会 事業委員会

jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

（1）氏名（ふりがな） （2）住所

（3）連絡先電話/Fax番号

（4）E-mailアドレス

（5）所属/職名（学生の方は学年）

（6）会員/非会員の別

（7）投稿論文についての質問をお一つ、差し支えない範囲でできるだけ具体的にお書き下さい。当日の配布資料に、匿名で掲載させていただきます。この資料は、フロアとのインタラクションの際に活用する予定です。

定員になり次第締め切りますので、お早目のお申し込みをお願いします。参加の可否については、参加者名簿が確定した後に、申し込まれた方にメールでご連絡いたします。

※キャンセルについて

有職者の方につきましては、3月19日までの参加取り消しにはキャンセル料はかかりませんが、3月20日から25日までの間のキャンセル料は費用の1/2、当日以後のキャンセルは費用の全額を申し受けますので、ご注意下さい。キャンセル料の振り込み方法につきましては、別途メールで連絡申し上げます。なお、振込みの際の手数料は、ご本人様負担とさせていただきます。学生の方は、キャンセル料は発生しませんが、キャンセルの場合には、必ずメールでご一報下さい。

第13回社会言語科学会大会プログラム

日時： 2004年3月27日(土), 28日(日)

場所： 東京工芸大学 中野キャンパス・芸術情報館

http://www.t-kougei.ac.jp/guide_nakano/index.html

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 tel: 03-3372-1321 (代表)

交通：丸の内線、大江戸線 中野坂上下車（徒歩約7分）

費用： (事前登録は不要です。直接会場へお越し下さい。)

| | | |
|----|-----|-------|
| 会員 | 非会員 | 非会員学生 |
|----|-----|-------|

| | | |
|------|--------|--------|
| 参加費: | 1,000円 | 3,000円 |
|------|--------|--------|

| | | |
|------|--------|--------|
| 予稿集: | 2,000円 | 2,000円 |
|------|--------|--------|

プログラム

第1日目 3月27日(土)

9:30 受付開始

10:00 開会

10:00-10:40 テーマ講演1 (メインホール)

広告は「コミュニケーション」か?

-社会学的語用論の観点から考える

辻大介 (関西大学)

10:45-12:40 研究発表1 (メインホール)

研究発表2 (第1会議室)

[12:40-13:40 理事会]

13:10-15:10 ポスター発表 (ギャラリー)

15:10-18:00 シンポジウム (メインホール)

話者の文化的基盤の顕現を誘発する談話データとは?

企画責任者:片岡邦好 (愛知大学)

登壇者:片桐恭弘 (A T R)

スコット・サフト (ハワイ東海

インターナショナルカレッジ)

岩崎勝一 (U C L A)

喜多壯太郎 (プリストル大学)

指定討論者:石崎雅人 (東京大学)

18:30-20:30 懇親会

【研究発表1: メインホール】

10:45-11:10

気づかれにくい方言の使用意識と語認識
- 岩手県における地域別調査から

吉積由紀子

11:15-11:40

「『ク』+カ行音」の「促音化」現象について
-『日本語話し言葉コーパス』の分析結果

岡田祥平

11:45-12:10

二歳児の会話能力
- 双生児の母親が果たしている役割からの
分析

中島君枝・白井純子・

白井英俊・Patschke Cynthia

12:15-12:40

子どもの言語発達における模倣の可能性の検討
-ある11歳児の実際の映像の分析を通して

吉井均枝

【研究発表2: 第1会議室】

10:45-11:10

エスペラントの言語文化に関する考察
-慣用語法 krokodili の観点から

臼井裕之

11:15-11:40

新聞報道とイデオロギー構築に関する一考察
-瀋陽事件をめぐる日中新聞記事の分析を通

| | |
|---|--|
| じて | P09 行政外来語の実態と問題点 田中牧郎・桐生りか・茂木俊伸・山口昌也 |
| 11:45-12:10 中国「漫画」呼称論争 —国家漫画プロジェクト実施以降を中心に 南雲大悟 | P10 語種との関係に基づいた新聞記事における 語彙の時間的変化分析 山口昌也・茂木俊伸・桐生りか・田中牧郎 |
| 12:15-12:40 言葉使い及び意識調査の結果からみられるコミ ュニティ言語の実態 —「ドルブットモンゴル族中学校・高等学校」 モンゴル語主体カリキュラムの生徒を中心 に 包聯群 | P11 英語の子音連鎖の単純化 —アメリカ、イギリス、ニュージーランド 英語の[t, d]脱落 平野圭子 |
| 【ポスター発表：ギャラリー】 (13:10-15:10) | P12 接触言語としての中国朝鮮語の言語規範 宮下尚子 |
| P01 優れた中国人学習者の日本語習得について 福井千鶴子 | 第2日目 3月28日(日) |
| P02 メッセージと顔文字の信頼度に関するスペ ースの数の効果 中丸茂 | 9:30 受付開始 10:00 開会 |
| P03 英和辞典における発音表記について —発音記号表記とカナ発音表記を比較して 西原哲雄 | 10:00-10:40 テーマ講演2 (メインホール) ことばと社会心理学の方法 岡 隆 (東京大学) |
| P04 個人の意味世界におけるポライトネス —ある少女の日記における自称詞使用に注 目して 石田喜美 | 10:45-12:40 研究発表3 (メインホール) 研究発表4 (第1会議室) |
| P05 ナラティヴディスコースの「よ」と「ね」の 使用にみられる視点の移動 —言語獲得の観点から 櫻井千佳子 | 13:40-15:10 講演 (メインホール) 「わたしにはあなたの言っていることが分から ない。」 —現代日本社会におけるディスコミュニケーションの諸位相 鷲田清一 (大阪大学) |
| P06 CMCを可能にするものとしてのリテラシー 平本毅 | 15:10-18:00 ワークショップ1 ワークショップ2 |
| P07 ブック・トークとレポートに見る留学生の 引用と主張 大島弥生 | ・ワークショップ1 (メインホール) 変異理論は「相関主義」的か? —言語変異理論の新たな展開 企画責任者: 太田一郎 (鹿児島大学) 話題提供者: 松田謙次郎 (神戸松蔭女子学院 大学) 高野照司 (北星学園大学) 朝日祥之 (大阪大学大学院) |
| P08 日本マンガにおけるオノマトペの使用分析 陳佳敵 (チン ジャウン) | |

| | |
|--|---|
| ・ワークショップ2（第1会議室） 多人数会話における話者交代再考 —参与構造とノンバーバル情報を中心に 企画責任者：高梨克也（通信総合研究所） 話題提供者：伝康晴（千葉大学） 細馬宏通（滋賀県立大学） 榎本美香（千葉大学大学院） 坊農真弓（神戸大学大学院／ ATR-MIS） 森本郁代（通信総合研究所） ほか | 12:15-12:40 携帯電話メールの日本語学習への影響、およ び、使用の実態 吉原洋一 |
| 18:00 閉会 | 【研究発表4：第1会議室】 |
| 10:45-11:10 広告キャッチフレーズにおける言語特性とその 効果に関する心理言語学的研究 —メイク用品広告を中心として 和田沙耶香 | 10:45-11:10 Universality in Politeness: A Case of Japanese Chikako Ichikawa Joseph Gorski Soichi Kozai |
| 11:15-11:40 雑誌広告に見られる日英語の表現方法の違い 正田りえ | 11:15-11:40 語用論的知識の演繹的提示の有効性 —ポライトネスストラテジーの指導を通して 村田和代 |
| 11:45-12:10 日英語の話法はなぜ違うのか 野村佑子 | 11:45-12:10 中国延辺朝鮮語の職場における聞き手待遇につ いて —hao体を中心に 千惠蘭 |
| 12:15-12:40 | 12:15-12:40 日本語会話のヘッジの機能：「聞き手への配慮」 ということについて —米語との比較対照によって 落合るみ子 |

社会言語科学の未来を作る会 第4回集会のお知らせ

企画委員会では、研究大会懇親会後、下記の通り、本学会の「第4回未来を作る会」を開催いたします。本学会をよりおもしろく、参加する意義の感じられるものにしていくための意見をぶつけあう会です。「本学会を、このようにしたい」という気持ちをお持ちの方、ぜひ「未来を考える会」にご参加ください。会員の方でしたら、どなたでも参加できます（懇親会、未来を作る会に連続参加された方には、懇親会費を1,000円キャッシュバック!!）

日時：2004年3月27日(土) 20:30(懇親会終了後)～

場所：未定(20:30に懇親会場前集合)

主催：社会言語科学会企画委員会

◇◇ 書評候補の募集 ◇◇

『社会言語科学』では、毎号2,3本の書評を掲載してきました。書評欄の一層の充実をはかるために、学会誌編集委員会内に書評担当編集委員をおきました。よい書評候補がありましたら、学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。ご推薦には、書評対象図書名、書評執筆候補者(会員に限る)、図書の推薦理由(2,3行)をお含みください。なお、書評の投稿につきましても、従来通り受け付けます。

学会誌編集委員会委員長 日比谷潤子 E-mail: jhibiya@icu.ac.jp

■ 博士論文情報 (2003年9月12日～2004年1月26日受付分)

- ・初対面の同文化内・異文化間コミュニケーション場面における日本語文化成員の相互作用管理方略の解明

佐々木 由美 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 人文科学博士 2003.3

- ・Re-marking the Boundaries: Towards Subversion of the Mechanism of Discourses Producing and Reproducing Social Discrimination

溝上 由紀 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 博士(文学) 2003.3

- ・マイナス待遇表現の言語行動論的研究

西尾 純二 大阪大学大学院文学研究科 博士(文学) 2003.10

本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、2003～4年度の博士論文一覧を、順次、ニュースレターに掲載する予定です。(1)論文タイトル、(2)著者名、(3)博士号授与機関、(4)博士号の分野、(5)取得年月の情報を下記までお送りください。要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください。

社会言語科学会事業委員会 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

□□ 研究最前線 □□□

メディアとことば

東洋大学文学部

三宅和子

昨年の3月、岡本能里子（東京国際大学）氏と佐藤彰（大阪大学）氏と共に、メディアとことばに関心のある研究者が専門の枠を越えて刺激し合う場として「メディアとことば研究会」を立ち上げた。集会（年4回）は新鮮な切り口の発表で滑り出し、第2回、第4回には関東と関西を結んでのTV会議研究会が実現した。この3月には論文集『メディアとことば』第1巻（ひつじ書房）も刊行予定。今後の展開が楽しみだ。当コラムでは、なぜ「メディアとことば」の集まりが必要と思ったのか、振り返ってみたい。

メディア環境がすさまじい勢いで変化している。携帯電話やインターネットの普及は、人々のコミュニケーション行動を変容させつつある。周りを歩いている人から突然話し声や笑い声が聞こえる、電車の中やプラットホームでは皆携帯画面を見つめさかんに親指を動かしている、ホームページ・掲示板・出会い系サイトを通して今までなら出会うはずもなかつた人と簡単に知り合え親しくなる

…人と人との繋がり方が変わり、自己と他者、意識する空間と無視する空間の境も変わりつつある。

スマートメディアが世界のグローバル化を牽引している。それは9.11のような出来事が瞬時に繰り返し伝えられ、時間と空間を超えた生々しい「現実」として認識されたことにも象徴される。が、メディアの「現実」は現実そのものではない。CNNの日本語放送を例にとると、イラク報道は、現場リポーターが報道に値するとした現実を、カメラマンが切り取った映像と共に、スタジオのキャスターとの（TV会社の価値観を反映した）やり取りを通して、通訳者というメディアを介して伝えられ、それを私たちは社会と時代のコンテクストの中で理解する。すべて自明のことだが、構成された「現実」であることを何度も自分にいい聞かせても足りないほど、知らぬ間にメディアに絡めとられそうな強迫観がある。

さらに、インターネットやデジタル放送の発達がマスとパーソナルの境界を曖昧にしている。情報は私たちの感覚をますます痺痺させ、情報と現実の異なり、重要な情報とゴミのような情報の区別、メディアを通して可能なことと不可能なことの違いまで曖昧にしている。いま、様々なメディアを通じたコミュニケーションをクリティカルに

とらえ、それを利用して自己表現できる能力が強く望まれるのは、必然であろう。このような社会の変化とそれを踏まえた未来の展望を考える上で、「ことば」の研究はどのような貢献ができるのか、真剣に考えるときだと思う。

もうひとつ感じてきたことがある。研究・教育の世界で、自由な発想を生かし、分野を越えて交流できる場が欲しいということだ。これまで、研究者として出発し認められるには、先行の研究や理論から学び、それを自己の研究で検証したり応用したりすることが奨励されがちだった。確かに、理論に支えられ地道な調査に裏打ちされた研究は、方法論も説得力も優れているし大切だ。しかし周りに山積する問題は、さらに異なるアプローチも要求してはいないだろうか。従来なかった発想や視点を、「研究ではない」、「専門ではない」、「いい

加減に見える」といった判断基準で切り捨ててしまつていいのか。気づいた現象をボトムアップで探求していく研究や、分野を越境してしまう発想や視野の広がりも大切ではないか。そしてそれを真剣に面白がってくれる仲間、当然だと励ましてくれる場が必要なのではないだろうか…年齢の上下、経験の長短の違いを越えて、異なる視点や分析法から学び、率直な反論や質問ができ、互いの励みになるような場、研究会があれば、と思った。

こうした研究交流の場への希求と、メディアという現代的な問題に対する関心が結びつき、「メディアとことば」というテーマの研究会が生まれた。1年を経た「メディアとことば研究会」は、上述の思いが自分だけのものではなかったことを実感させてくれる会になりつつある。

(みやけ かずこ)

ニュースレター担当：学会事業委員会

音声の出る教科書や問題集を出版してみませんか 本から音が出る。これは語学教育を変えるIT教具です。

日本語、外国語を問わず、語学教育には最適の教材が

あなたの手によって製作可能になりました。

SoundReader

出版なさりたい方は
当校に御連絡ください。
編集指導の研修
制度もあります。

定価 8,000円
(消費税別)

日本発、音声教育の新システム

CD-ROM やカセットのように頭出しをしたりする手間は全くかかりず、音を出したいと思ったところをなぞるだけで声や音が出ます。実際に作成された教材、「新実用日本語シリーズ」を一度手にとって見て下さい。あなたのアイデア次第であらゆる可能性が広がります。

問い合わせ先・(学) 新宿日本語学校 サウンド・リーダー事業部

学校法人江副学園

新宿日本語学校

169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-9-7 電話 03-5273-0044 www.sng.ac.jp

SoundReader 二次元コード読み取りのサウンド・リーダーは新宿日本語学校が生産している教具です。

テキスト型データ解析ソフト

Word Miner

ワードマイナー

効率

テキスト型データからの情報抽出・論理検索のツール

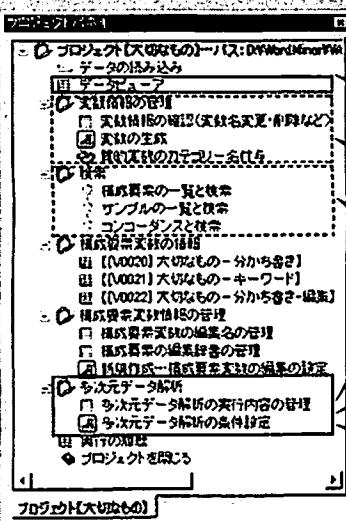
「ナマの声」や「文章」に
ひそむ、人の
“こころ”を探り出す。

「テキスト型データ解析
ソフトウェア」

Windows対応

テキスト型データ解析ソフトウェア「WordMiner」は独創性あふれるソリューションです。固定化されたアルゴリズムに基づく解析手法を使用する従来のテキスト・マイニング・ツールでは困難だった「さまざまな視点からの探索的な多次元データ解析」を実現。収集された数値的なデータと言葉や文字といったテキスト型データを併用し、情報の中に潜む「顧客や消費者たちの本音」を容易に探し出すことを可能にします。その機能面の確かさは、研究所や教育機関をはじめ多数の導入実績が示しています。

優れた機能をカンタンに活用、しかも廉価!



「観察する」

「整える」

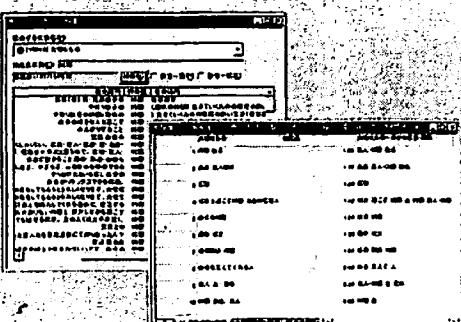
「検索する」

「要約する」

「比べる」

「分ける」

- 廉価であるWordMiner Version1.1 30万円(税別)
- テキスト型データのマイニングを身近な机上のPCで実現
- 高価なワークステーション等の設備投資は不要
- エクセル、シートプロセッサ、統計用ソフトウェアなど、他の対応ソフトとの接合性に優れている



[動作環境]

- CPU Intel社Pentium以上のCPUを利用したPC/AT互換機
- OS 下記の日本語OSが最新の状態で正常に作動していること
Windows95/98/NT4.0/2000/ME
Internet Explorer V5.0以上が最新の状態で正常に動作していること
- 推奨作業環境 CPU500MHz以上、メモリー128MB以上、
ハードディスク容量500MB以上



日本電子計算株式会社
ビジネスソリューション事業部

〒135-8388 東京都江東区東陽2-4-24
TEL. 03-5690-3203 FAX. 03-5690-3243
E-mail WordMiner_info@is.jip.co.jp

URL <http://www.jip.co.jp/si/soft/wordminer.html>